

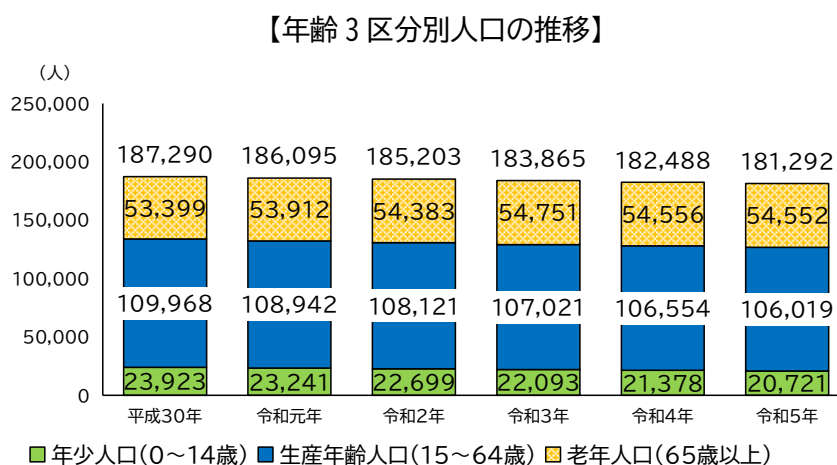
第2章 宇治市民の健康状態と前計画の達成状況

1. 宇治市の現況（案）

(1) 人口構成と推移

① 年齢3区分別人口の推移

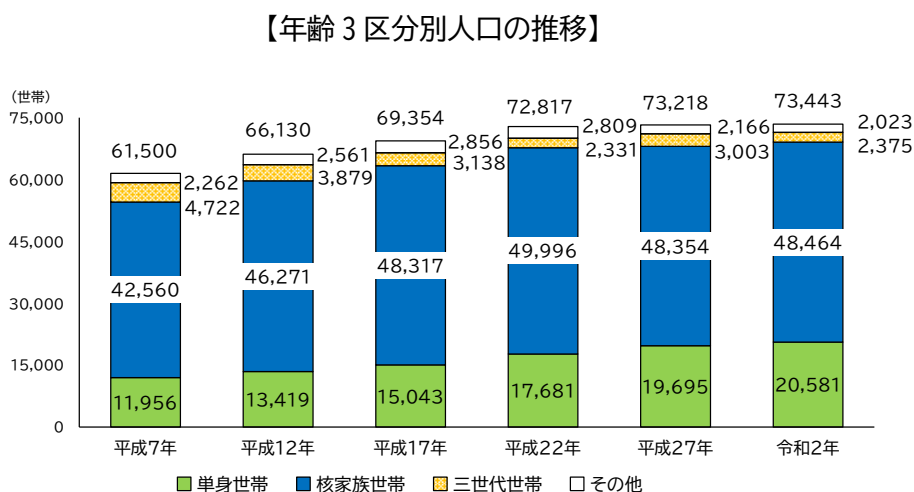
本市の人口は年々減少しています。年齢3区分別に見ると、年少人口、生産年齢人口が年々減少しています。老年人口については増加傾向です。



資料：住民基本台帳（各年10月1日現在）

② 世帯の状況

本市の一般世帯数(総世帯から施設等の世帯を除いた世帯)は年々増加しており、令和2年で73,443世帯となっております。中でも、単身世帯は年々増加しており、令和2年で20,581世帯となっております。



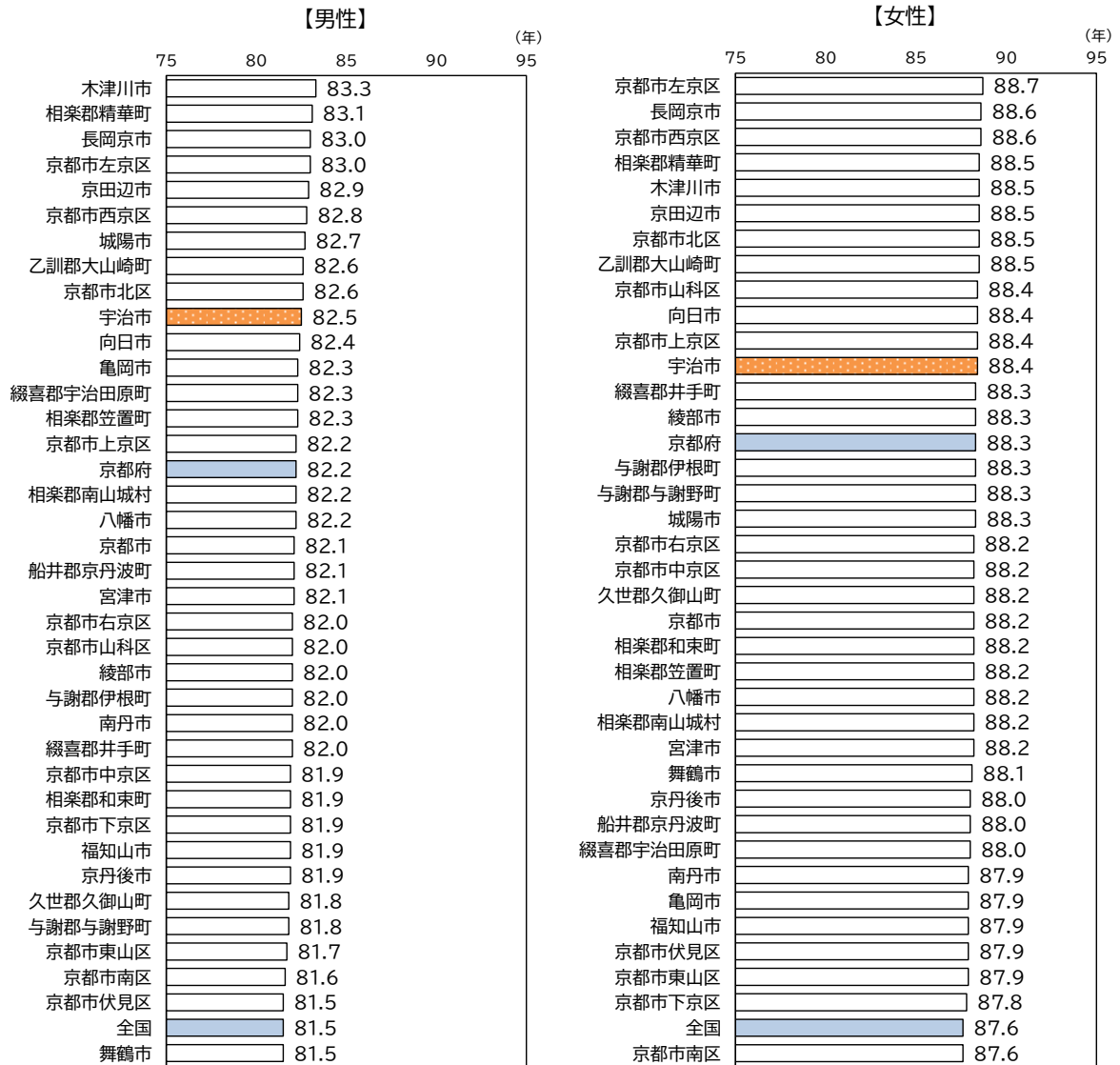
資料：国勢調査

(2) 平均寿命と健康寿命

① 平均寿命

本市の平均寿命は、男性 82.5 年、女性は 88.4 年となっています。男女ともに全国、京都府と比較して長くなっています。

【府下自治体別平均寿命（令和 2 年度）】



資料：令和 2 年市区町村別生命表

② 健康寿命

本市の健康寿命は、男女ともに全国・京都府と比較して長くなっています。

※健康寿命・平均寿命の算定については、健康日本 21(第2次)で用いられているものと同様のプログラムを使用しています。
当該プログラムでは、健康寿命の算定にあたり3つの指標が定められていますが、本計画では、このうち市町村が使用することを想定して定められた指標「日常生活動作が自立している期間の平均」を使用しています。

【健康寿命、平均寿命及び不健康な期間（令和元年）】

令和3年	宇治市		京都府		全国	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
平均余命（年）	83.7	88.7	82.2	88.2	81.5	87.6
健康寿命（年） （0歳平均自立期間）	81.9	85.2	80.3	84.2	80.0	84.3
不健康な期間（年）	1.8	3.5	1.9	4.0	1.5	3.3

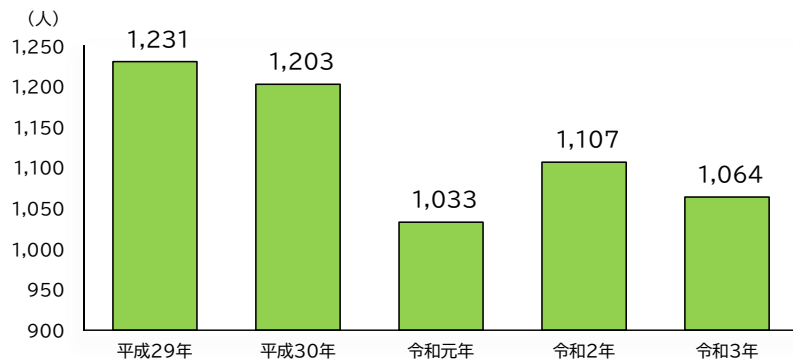
資料：KDB（平均寿命と介護保険（要介護2以上）認定者数からみる府内市町村別の平均自立期間より）

(3) 出生・死亡の状況

① 出生数の推移

出生数は平成29年から令和3年の5年間で167人減少しており、令和3年には1,064人となっています。

【出生数の推移】

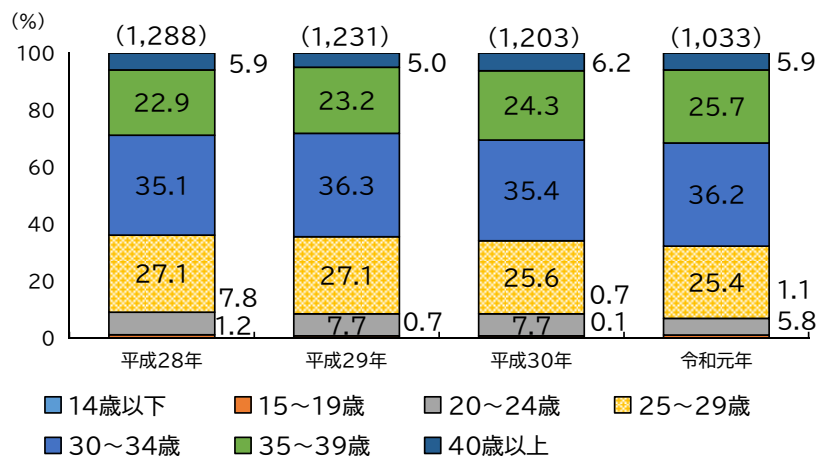


資料：人口動態統計

② 母親の年齢別出生割合

母親の年齢別出生割合を5歳区分で見ると、30～34歳の割合が最も多くなっています。また、35歳以上の出産割合について、平成28年以降増加しています。

【母親の年齢別出生割合】



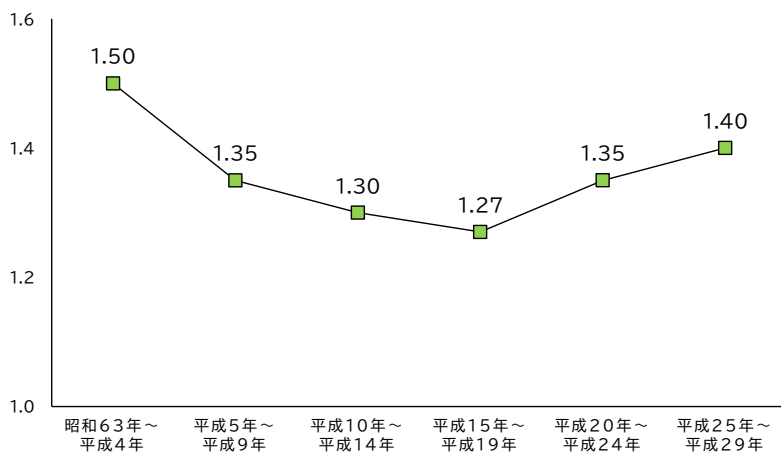
※ () 内の数値は総出生数

資料：人口動態統計

③ 合計特殊出生率の推移

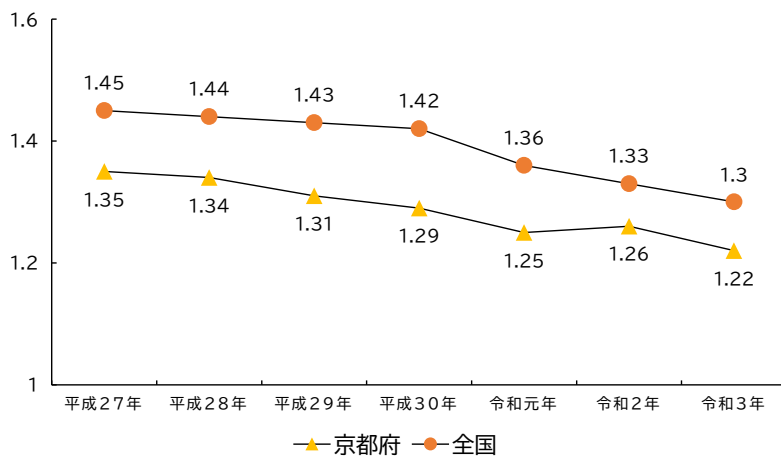
本市の合計特殊出生率は平成 19 年まで低下し続けていましたが、その後増加に転じ、平成 25 年～平成 29 年では 1.40 となっています。

【合計特殊出生率の推移（宇治市）】



資料：人口動態統計特殊報告書

【合計特殊出生率の推移（京都府、全国）】



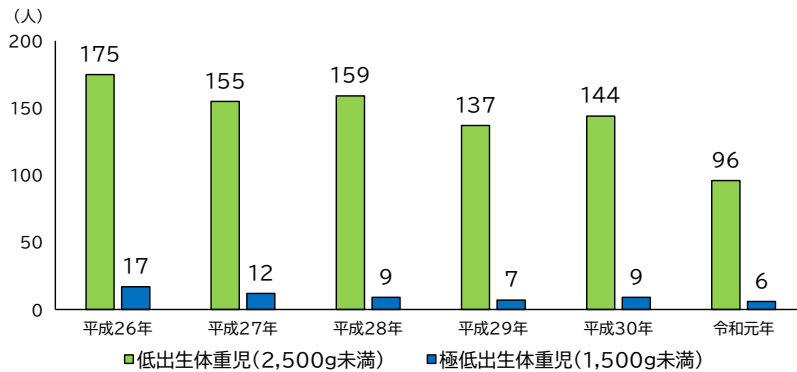
資料：人口動態統計

④ 低出生体重児の出生数の推移

低出生体重児の出生数は平成 26 年以降、減少傾向であり、令和元年は 96 人となっています。また、極低出生体重児は平成 26 年以降、減少傾向であり、令和元年は 6 人となっています。

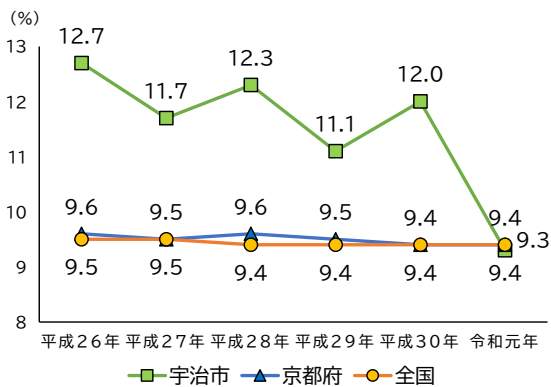
本市の低出生体重児の出生割合については、平成 26 年以降、全国、京都府を上回っていましたが、令和元年は全国、京都府と同程度まで減少しています。また、極低出生体重児の出生割合は、平成 27 年までは全国、京都府を上回っていましたが、平成 28 年以降は全国、京都府と同程度か下回っています。

【低出生体重児と極低出生体重児の出生数の推移】

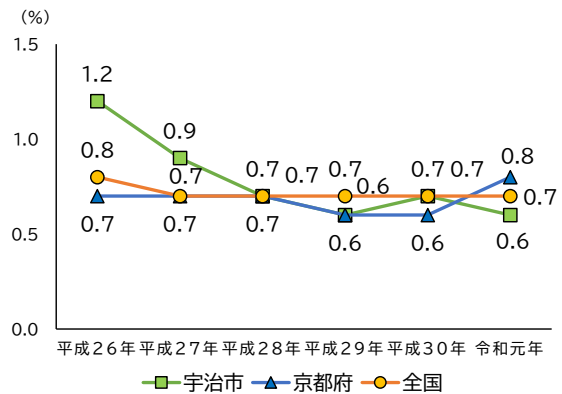


資料：人口動態統計

【低出生体重児の出生割合の推移】



【極低出生体重児の出生割合の推移】

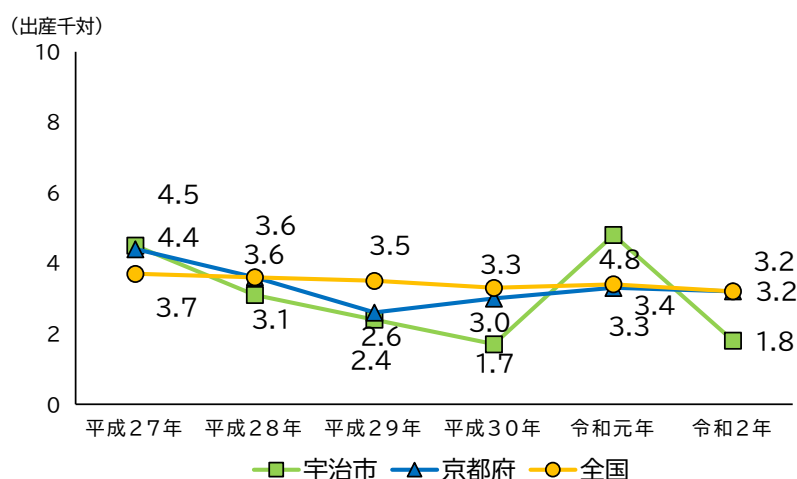


資料：人口動態統計

⑤ 周産期死亡率の推移

本市の周産期死亡率は、平成30年まで減少傾向にあり、全国、京都府を下回っていましたが、令和元年に4.8まで増加して全国、京都府を上回った後、令和2年に1.8まで減少し、全国、京都府を下回っています。

【周産期死亡率の推移】

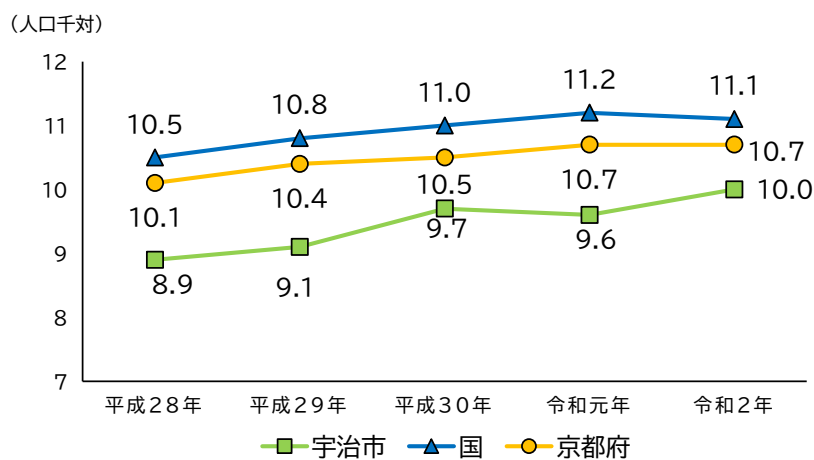


資料：人口動態統計

⑥ 死亡率の推移

本市の死亡率について人口千対で見ると、平成28年以降、全国、京都府より低くなっているものの、増加傾向であり、令和2年は10.0となっています。

【死亡率の推移】

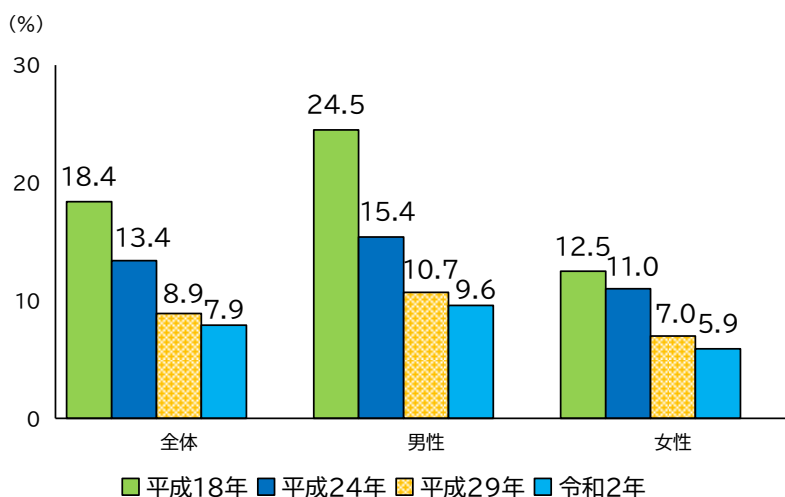


資料：京都府保健福祉統計年報

⑦ 全死亡に対する早世の割合

本市の令和2年の全死亡に対する早世（65歳未満の死亡）の割合は7.9%となっており、平成18年以降、減少しています。性別で見ると、男性が9.6%、女性が5.9%となっています。

【全死亡に対する早世の割合（令和2年）】



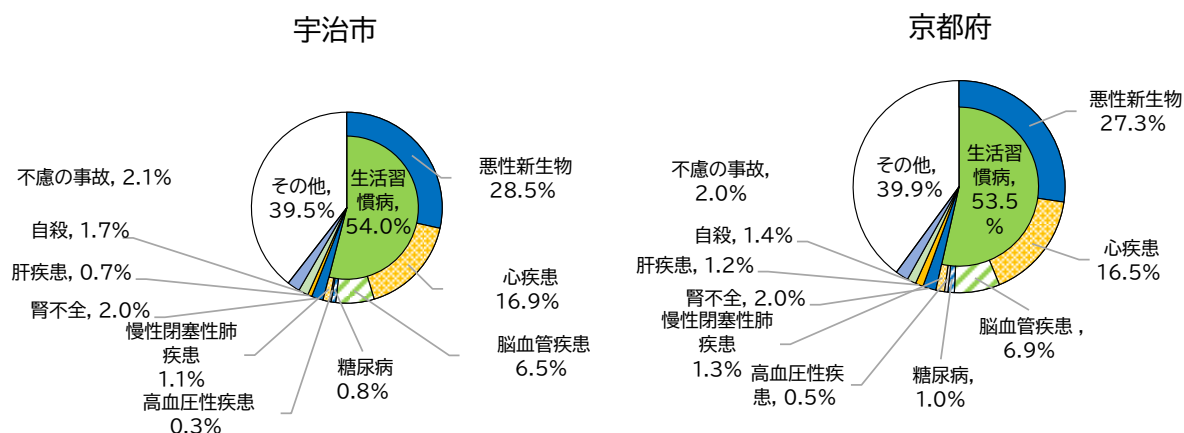
資料：京都府保健福祉統計年報

⑧ 死因別死亡割合

最新の死因別死亡割合を見ると、悪性新生物が28.5%と最も高く、次いで心疾患が16.9%、脳血管疾患が6.5%となっています。

また、悪性新生物、心疾患、脳血管疾患、糖尿病、高血圧性疾患、慢性閉塞性肺疾患（COPD）をあわせた生活習慣病による死亡は54.0%となっています。生活習慣病による死亡のうち、悪性新生物、心疾患は京都府より高い割合となっています。

【令和3年 死因別死亡割合】

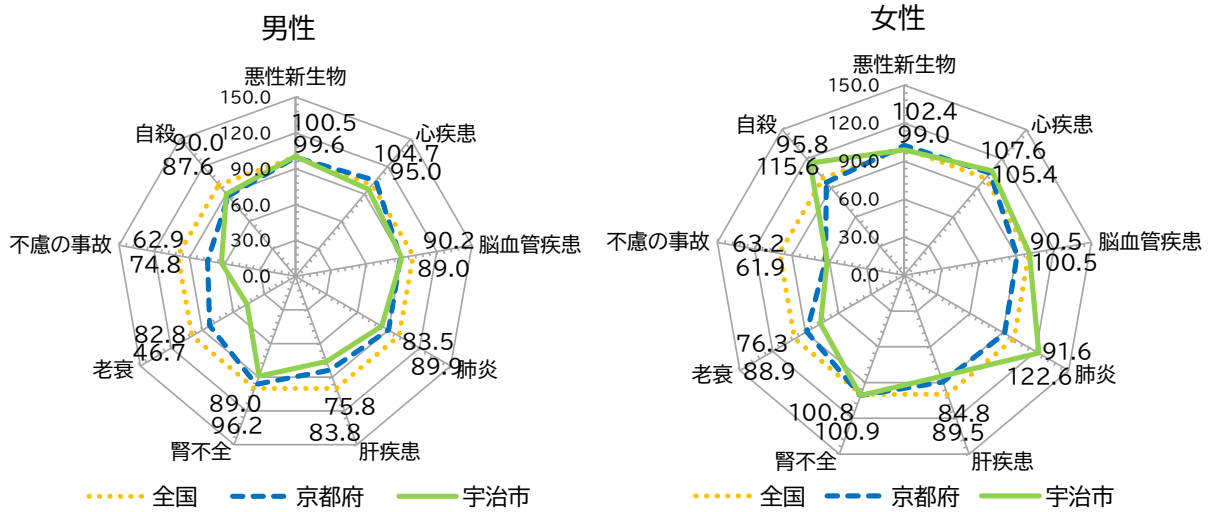


資料：人口動態統計

⑨ 標準化死亡比

本市の男性の標準化死亡比は、全国（100）に比べて「悪性新生物」が高くなっており、女性の標準化死亡比は、「肺炎」「自殺」「心疾患」「腎不全」が高くなっています。

【平成 25 年～平成 29 年 死因別標準化死亡比】

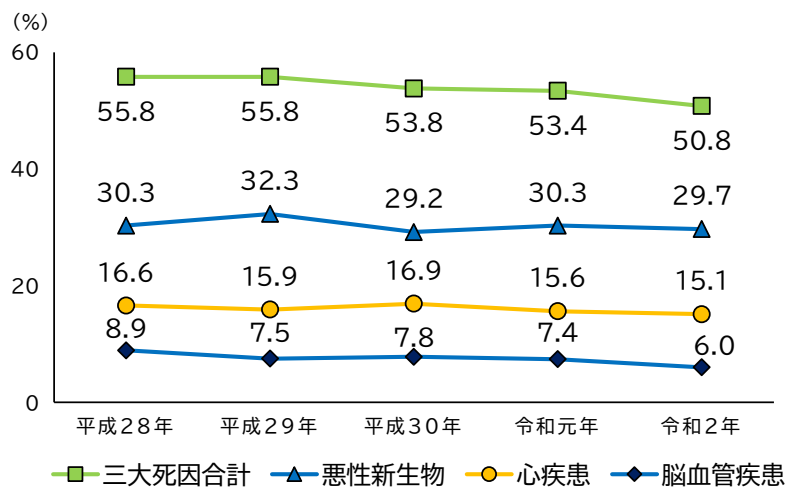


資料：人口動態統計

⑩ 全死亡に占める三大死因別死亡割合の推移

悪性新生物は横ばいで推移しており、心疾患は平成 30 年以降減少傾向であり、脳血管疾患は平成 28 年以降、減少傾向です。三大死因合計については、平成 29 年以降、減少しています。

【全死亡に占める三大死因別死亡の割合の推移】

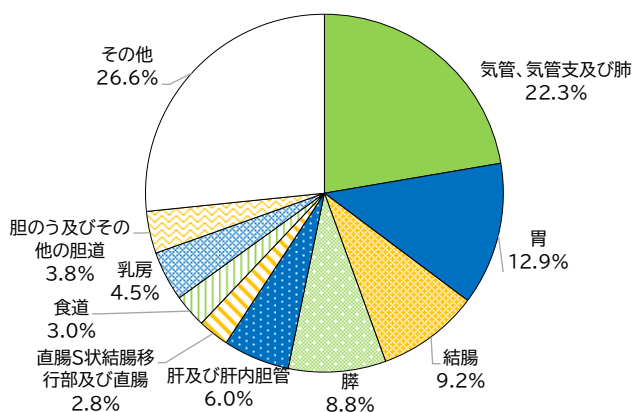


資料：京都府保健福祉統計年報

⑪ 死因における悪性新生物の部位別構成比

令和2年に悪性新生物で死亡した人の部位別構成比を見ると、「気管、気管支及び肺」が最も多く22.3%、次いで「胃」が12.9%、「結腸」9.2%、「膵」8.8%、「肝及び肝内胆管」6.0%となっています。

【悪性新生物の部位別構成比（令和2年）】

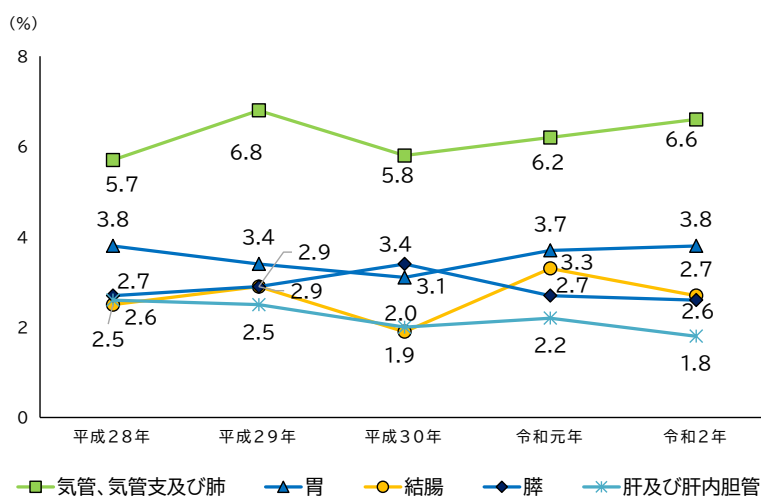


資料：京都府保健福祉統計年報

⑫ 全死亡に対する部位別悪性新生物の死亡率の推移

本市の全死亡に対する部位別の悪性新生物の死亡率（上位5部位）の推移を見ると、気管、気管支及び肺、胃は増加しており、結腸、膵、肝及び肝内胆管が減少しています。

【全死亡に対する部位別悪性新生物の死亡率の推移】



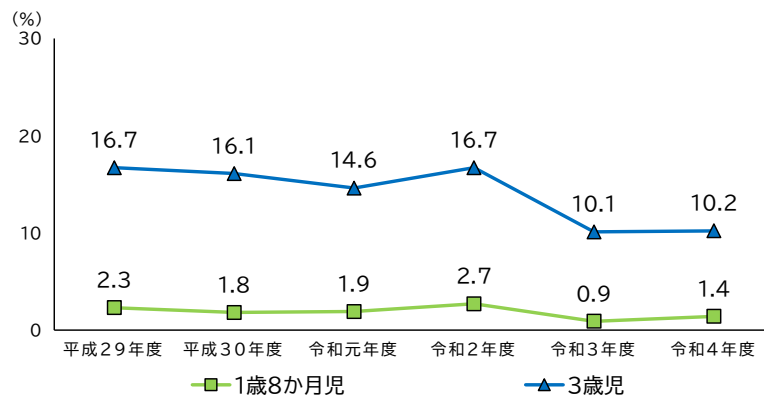
資料：京都府保健福祉統計年報

(4) 子どもの状況

① 幼児のむし歯保有者率

幼児のむし歯保有者率は、1歳8か月児は横ばいで推移していますが、3歳児は令和2年度以降、減少傾向です。

【幼児のむし歯保有者率の推移】

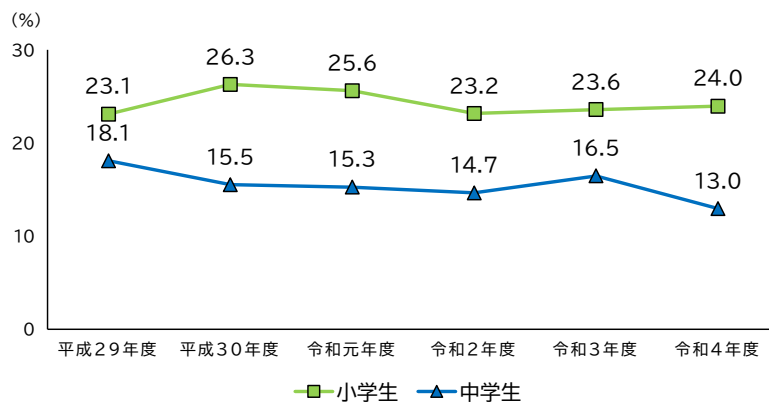


資料：保健推進課

② 小学生・中学生のむし歯保有者率

小学生のむし歯保有者率は横ばいで推移しており、中学生は減少傾向です。

【小学生・中学生のむし歯保有者率の推移】

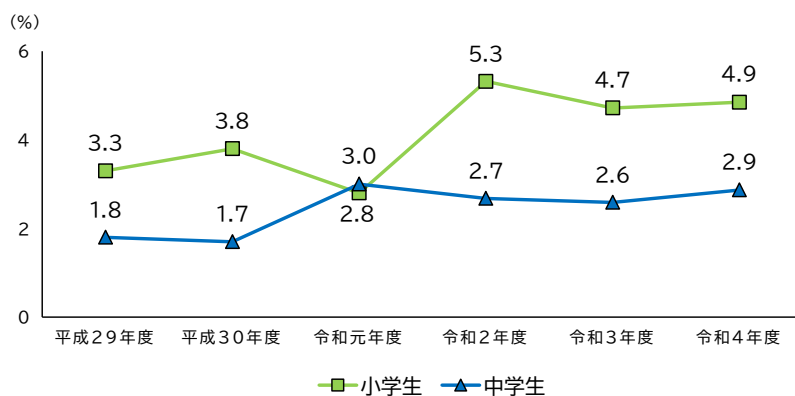


資料：学校管理課

③ 小学生・中学生の肥満傾向

肥満傾向にある小学生は令和2年度に増加して以降、横ばいとなっています。中学生は令和元年度に増加して以降、横ばいとなっています。

【肥満傾向にある小学生・中学生の割合の推移】



資料：学校管理課

※肥満傾向：学校健康調査において、学校医により肥満傾向で特に注意を要すると判定された小学生・中学生

(5) 高齢者の状況

① 要支援・要介護認定者数・認定率の推移

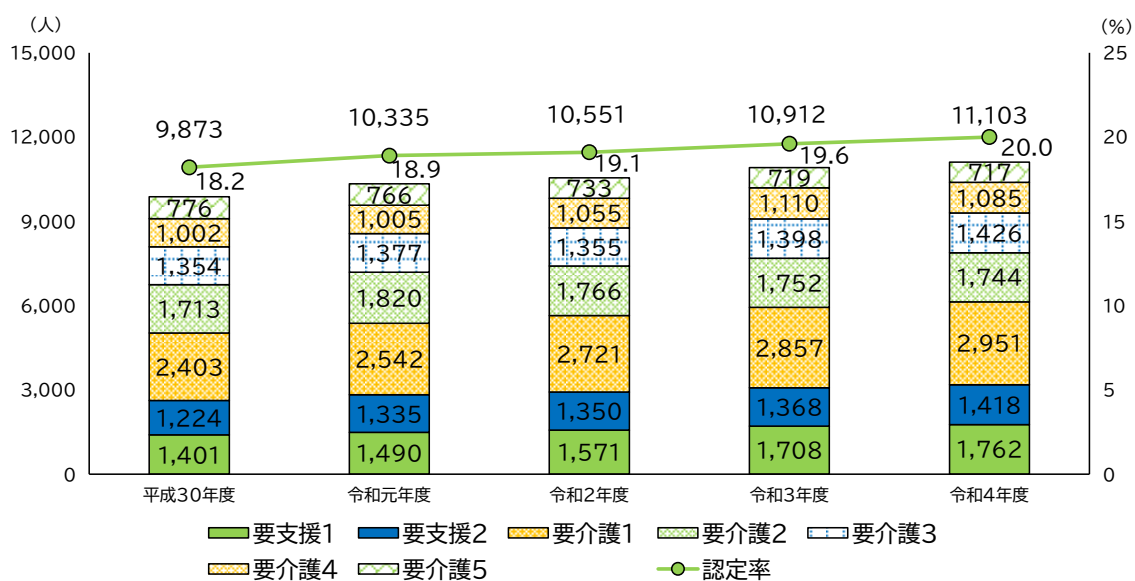
第1号被保険者について、令和4年度は54,406人と、平成30年度から1,166人増加しています。要介護（要支援）認定者数について、令和4年度は11,103人と、平成30年度から1,230人増加しています。認定率について、令和4年度は20.0%と、平成30年度から1.8%増加しています。

【要支援・要介護認定者数・認定率の推移】

単位：人

	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
要支援1	1,401	1,490	1,571	1,708	1,762
要支援2	1,224	1,335	1,350	1,368	1,418
要介護1	2,403	2,542	2,721	2,857	2,951
要介護2	1,713	1,820	1,766	1,752	1,744
要介護3	1,354	1,377	1,355	1,398	1,426
要介護4	1,002	1,005	1,055	1,110	1,085
要介護5	776	766	733	719	717
合計	9,873	10,335	10,551	10,912	11,103
第1号被保険者	53,240	53,746	54,228	54,597	54,406
認定率	18.2	18.9	19.1	19.6	20.0

※認定者数は第2号被保険者（40～64歳）を含む人数
 ※認定率は、65歳以上認定者数／第1号被保険者数
 ※認定者数は各年度9月末日、第1号被保険者数は各年度10月1日の値

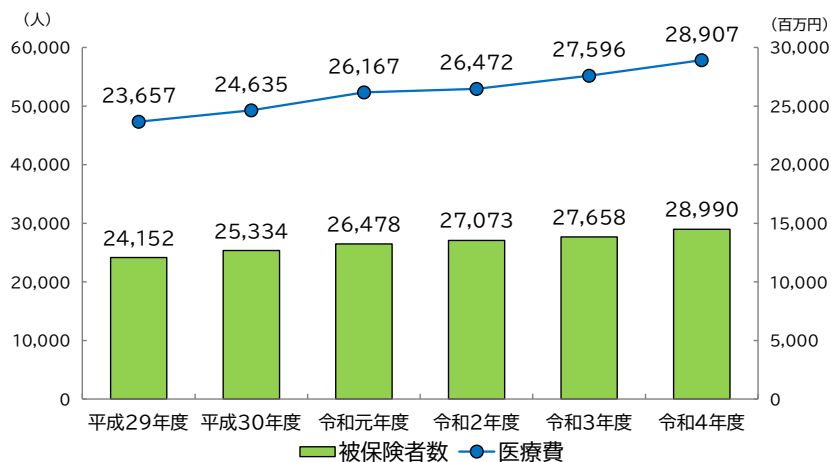


資料：介護保険課

② 後期高齢者医療保険被保険者数と医療費の推移

後期高齢者医療保険被保険者数および医療費はいずれも平成29年度以降、増加しています。

【後期高齢者医療保険被保険者数と医療費の推移】

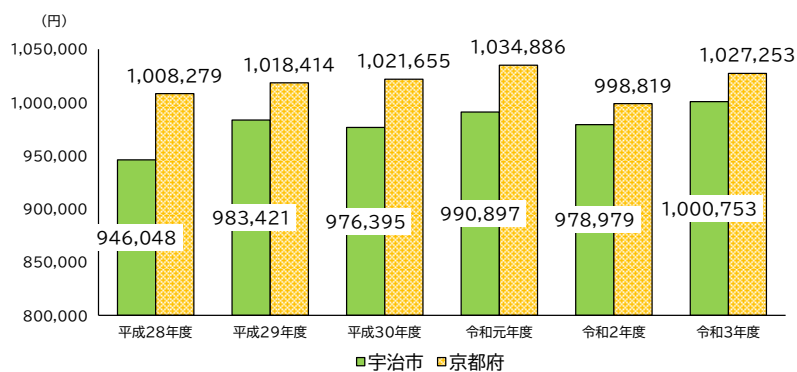


資料：年金医療課

③ 後期高齢者一人あたりの医療費の推移

本市の後期高齢者一人あたりの医療費は、増減を繰り返しているものの、増加傾向です。

【後期高齢者一人あたりの医療費の推移と京都府との比較】



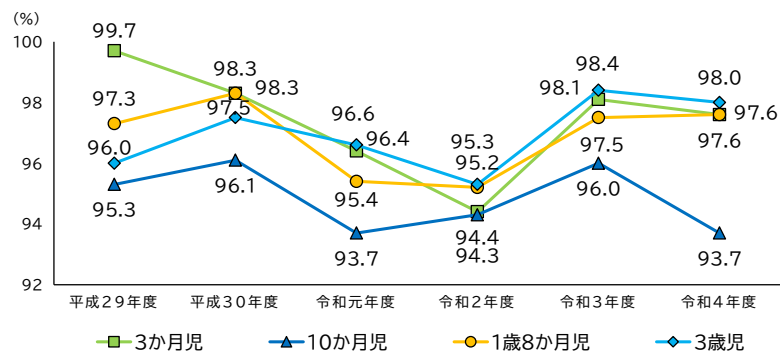
資料：年金医療課

(6) 健康診査（検診）受診状況

① 乳幼児健康診査の受診状況

乳幼児健康診査の受診率は、年によってばらつきがあるものの、90%以上の割合で推移しています。

【乳幼児健康診査受診率の推移】

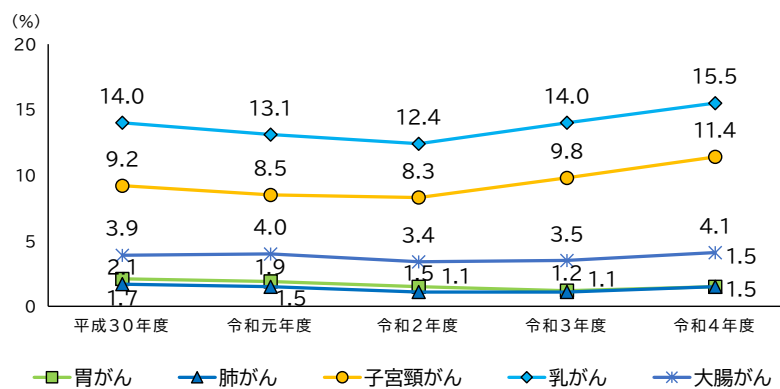


資料：保健推進課

② がん検診の受診状況

がん検診の受診率は、子宮頸がん、乳がんについて、令和2年度以降、増加しています。胃がん、肺がん、大腸がんは横ばいで推移しています。

【がん検診受診率の推移】

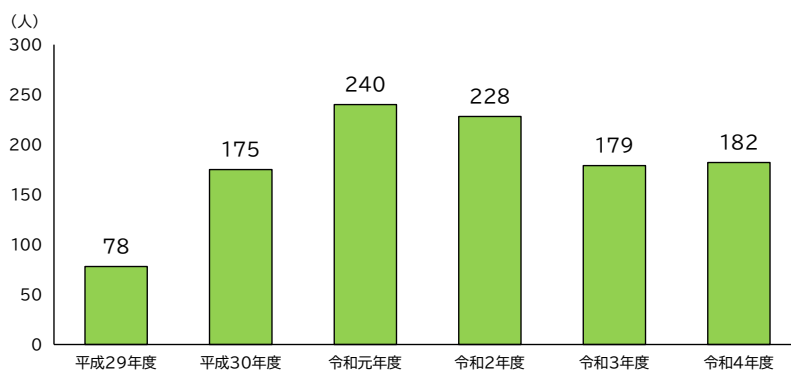


資料：健康づくり推進課

③ 成人歯科健診の受診状況

成人歯科健診受診者数は、平成29年度から令和元年度にかけて増加していたものの、令和2年度以降は減少傾向にあり、令和4年度は182人となっています。

【成人歯科健診受診者数の推移】

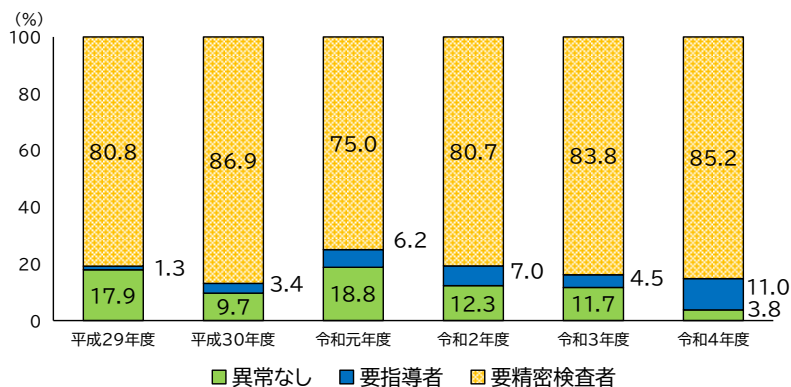


資料：健康づくり推進課

④ 成人歯科健診の結果内訳の推移

要指導者は令和元年度以降、増加しており、要精密検査者は85.2%となっています。また、異常なしは令和元年度以降、減少しており、令和4年度は3.8%となっています。

【成人歯科健診の結果内訳の推移】



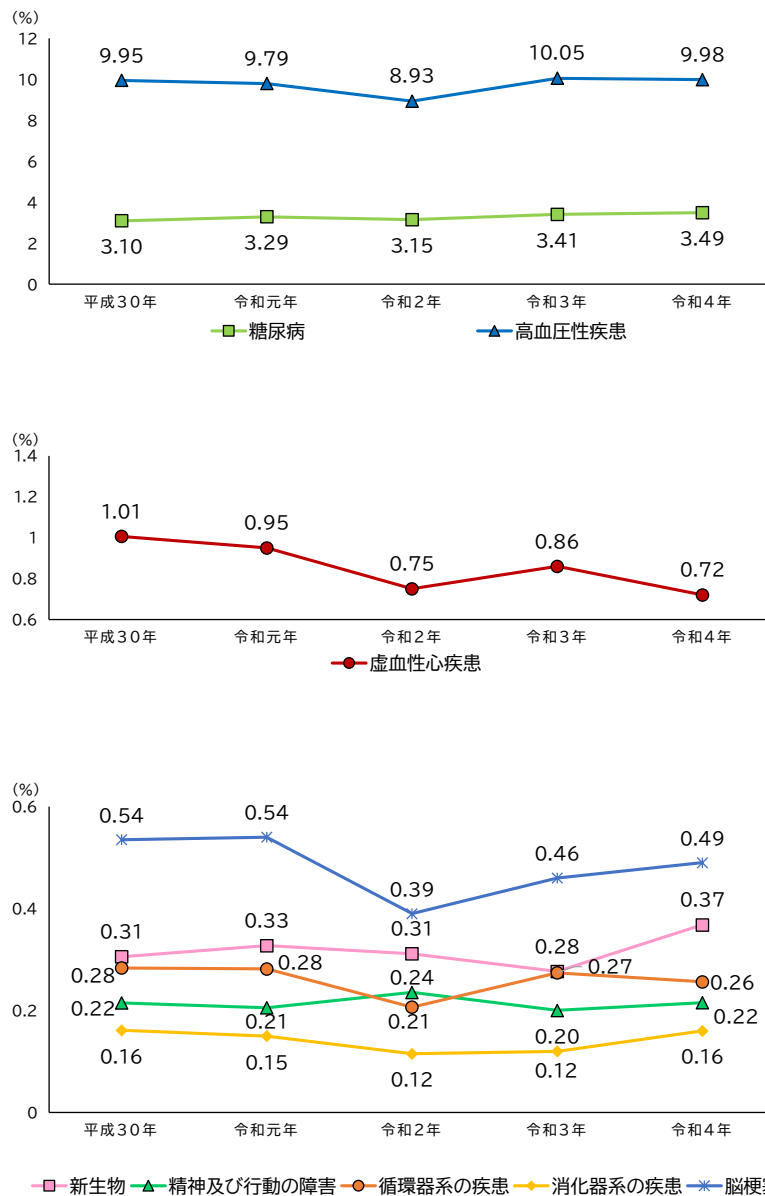
資料：健康づくり推進課

(7) 国民健康保険から見た疾病構造と受療状況

① 生活習慣病に関わる主要疾患の受診状況

主要疾患の受診率※を見ると、高血圧性疾患が最も高く、次いで糖尿病、虚血性心疾患となっています。

【生活習慣病に関わる主要疾患の受診状況の推移】



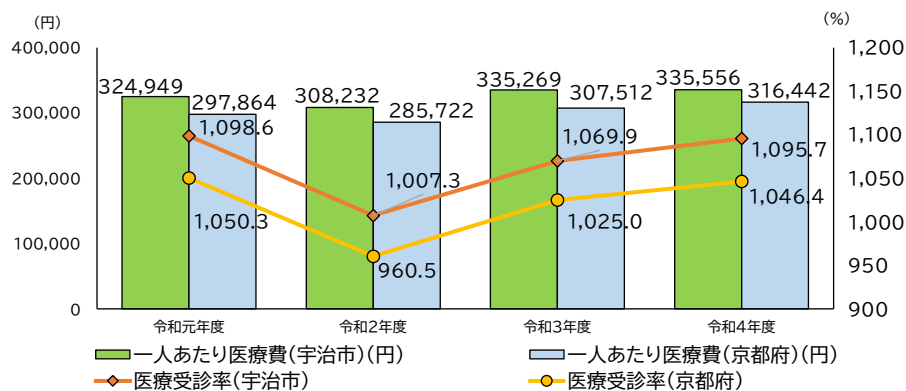
※ 受診率：被保険者 100 人当りの受診件数

資料：各年疾病分類別統計（注：平成 30 年以降は京都府国民健康保険団体連合会提供値）

② 医療受診率※と一人あたりの医療費の状況

本市の医療受診率は令和2年度以降、増加しており、令和4年度では1,095.7%となっています。また、一人あたりの医療費は令和3年度以降、増加しており、令和4年度で335,556円となっています。

【医療受診率と一人あたりの医療費の推移】



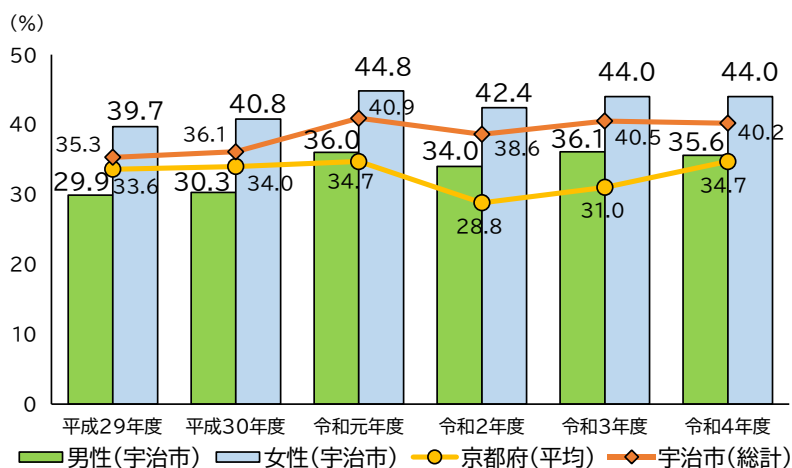
※ 医療受診率：受診件数を被保険者数で割って100を掛けたもの

資料：国民健康保険課

③ 特定健康診査受診率の状況

本市の特定健康診査受診率は男女ともに、平成29年度から令和元年度にかけて増加して以降、横ばいで推移しており、令和4年度は男性が35.6%、女性が44.0%となっています。また、本市の全体の受診率は平成29年度以降、京都府の受診率を上回っており、令和4年度は40.2%となっています。

【特定健康診査の受診率の推移】

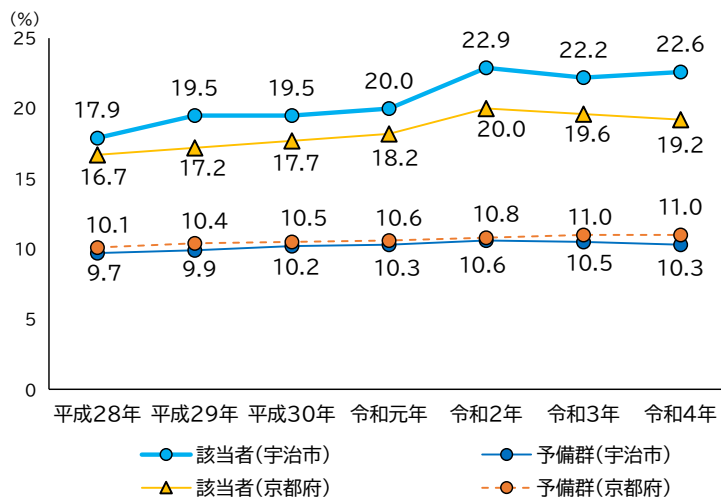


資料：各年度特定健診・特定保健指導法定報告結果

④ メタボリックシンドローム該当者・予備群の推移

本市のメタボリックシンドローム該当者は平成 28 年以降、増加傾向であり、令和 4 年度は 22.6% となっています。また、予備群は横ばいで推移しており、令和 4 年は 10.3% となっています。

【メタボリックシンドローム該当者・予備群の推移】



資料：各年度特定健診・特定保健指導法定報告結果